

第2学年 音楽科学習指導案

日 時：令和5年11月22日（水）公開授業Ⅱ
対象児童：滝沢市立滝沢小学校2年4組 29名
授業者：竹内 由香

- 1 題材名 くり返しを 生かして歌おう
教材名 かねが なる （教育芸術社）

2 題材の目標

- (1) 「かねが なる」の曲想と、歌詞の表す情景や旋律、リズム、強弱などとの関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声に気を付けて歌う技能を身に付ける。
〔知識及び技能〕A(1)ウ(イ)
- (2) 「かねが なる」の旋律、リズム、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、場面に合った表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア
- (3) 歌詞の表す情景を思い浮かべ、旋律、リズム、強弱などと曲想との関わりを感じ取って歌うことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。
「学びに向かう力、人間性等」

3 題材について

(1) 児童について

本学級の児童は、音楽の学習を楽しみにしており、歌を歌う時はほとんどの児童が大きな声で堂々と歌うことができる。新しい曲に出会うと、「3拍子の曲だ。」と既習を生かして、新しい学習に取り組んでいる。

児童はこれまで、「ドレミのうた」や「かえるのがっしょう」などで、音の高さに気を付けて歌ったり、輪唱をして音が重なる楽しさを味わったりしてきた。

しかし、互いの声を聞き合いながら声量のバランスに気を付けて歌ったり、曲想に合わせて声の出し方や強弱を工夫したりしながら歌う学習については不十分である。そこで、本題材を通して、旋律が繰り返される面白さや美しさに気づき、そのことを生かしながら、歌詞の表す情景を想像し曲にあった歌い方や強弱を工夫して歌う力を身に付けさせたい。

ICTの活用については、自分の歌声を録音したものを聴いて歌い方を修正したり、自分の声に合わせて輪唱したりしてきた。教師側の活用としては、授業に関連した動画を見せたり、デジタル教科書を活用したりしてきた。

(2) 教材について

本教材の「かねが なる」は、原曲はフランス民謡で、単純なリズムによる4種類の短い旋律の反復で構成されている。旋律のほとんどの部分は順次進行でできているため、旋律の音の動きやその反復を捉えやすい。幼稚園や保育園では「グーチョキパーで何作ろう」という題名でこの曲に親しんだ児童も多く、耳馴染みがよい。また、「ゴンゴンゴン」の部分を反復させて歌の旋律と重ねて歌う活動は、旋律の反復のよさや面白さを味わいながら旋律の重なる響きを感じ取ることができる。また、鐘が鳴る様子を思い浮かべながら歌わせることで、曲想に合った歌い方や強弱を工夫することに適した教材である。

(3) 指導について

本題材は、旋律の繰り返しを生かした曲を輪唱したり旋律を重ねて歌ったりすることのよさや面白さに気づき、曲想に合った歌い方や強弱を工夫して歌うことをねらいとしている。

題材の導入である第1時では、「かねがなる」の教材を通して、旋律の繰り返しによって、音楽がまとまったり、繰り返しを生かして工夫して歌ったりすることの楽しさを捉えさせたい。

第2時では、「かねがなる」の後半7・8小節の「ゴンゴンゴーン」の部分をベースにし、その上に歌詞と重ねて歌う活動を通して、輪唱で歌うだけでなく、別な旋律を重ねる面白さも味わうことで、繰り返しを使った楽曲のよさに気付かせたい。

ICTの活用については、実際の映像を見せることで曲想のイメージを膨らませたり、歌詞を重ねて歌う際に、音がつかれないように「ゴンゴンゴーン」の部分を録音したものを流したりする。

4 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知	「かねがなる」の曲想と、歌詞の表す情景や旋律、リズム、強弱などとの関わりに気付いている。	「かねがなる」の旋律、リズム、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、場面に合った表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	歌詞の表す情景を思い浮かべ、旋律、リズム、強弱などと曲想との関わりを感じ取って歌うことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
技	思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。 A(1)ウ(イ)	A(1)ア	

5 題材の指導計画 (2時間)

時間	ねらい・学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本時	・曲想と旋律の反復との関わりに気付いて歌う。	○知 (行動観察) (発言内容)		
2	・旋律の反復を生かして、歌い方を工夫する。	○技 (演奏聴取) (行動観察)	○思 (演奏聴取) (発言内容)	○態 (行動観察)

6 本時の指導（1時間目/全2時間）

(1) 目標

「かねがなる」の曲想と、歌詞の表す情景や旋律の反復との関わりに気付き、声の出し方に気を付けて歌う。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
知識	「かねがなる」の曲想と、歌詞の表す情景や旋律、リズム、強弱などとの関わりに気付いている。	ICTを活用し、実際に鐘が鳴っている街並みの様子を視聴させたり、体を動かしながら歌わせたりすることで、曲想に合った歌い方ができるようにする。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 ◇対話に関わる指導 □書くことに関わる指導 ●評価
導入 8分	1 ウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・「アルプス一万尺」をピアノ伴奏に合わせて歌いながらペアで手遊びをさせる。その際、伴奏の強弱を変えたり音の高さを変えたりしながら、音楽に合わせた歌い方ができるようにする。 ・「かねがなる」の曲を指導用CDで聴かせ、曲想について話し合うことで、本時の学習につなげることができるようにする。 ・鐘の写真を提示したり、鐘が鳴っている街並みの様子(動画)を視聴したりすることで、課題意識を高める。 (ICT活用)
	2 課題把握	
	【学習課題】 かねの音が、うつくしく ひびくように うたおう。	
展開 35分	3 解決の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で「かねがなる」を斉唱し、自分たちの歌声を確認する。 ◇「どのように歌いたいか」を問い、歌詞に着目させる。 ・手で音の高さを表しながら歌ったり、「ドレミ階段」を提示したりすることで、旋律の繰り返しに気付かせる。 ・学級を半分に分け、1小節毎に交互に歌わせることで、旋律の繰り返しに気付き、どんな感じがするか客観的に感じ取らせる。
	4 課題解決 (1)歌詞の表す情景から思いをもった歌い方で歌う。	

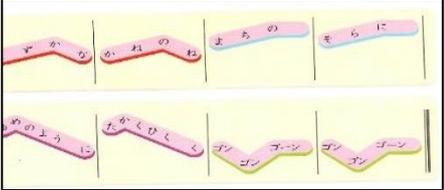
	(2)旋律が繰り返されているよさに気づき,自分たちの歌い方に生かす。 5 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・鐘が鳴っている様子(動画)を視聴させることで,旋律の繰り返しと,鐘の音の繰り返しや鐘の動きの繰り返しとを関連付けることができるようにする。(ICT活用) ・鐘が鳴っている様子を想像しながら,体を動かして歌わせることで,曲の速度やフレーズを意識させる。 <p>●学んだことを基に,「かねがなる」の曲想と,歌詞の表す情景や旋律,リズム,強弱などとの関わりに気付いている。</p>
終末 5分	6 振り返り 7 次時予告	<p>□本時の学習を通して学んだことを,ワークシートに記述させる。その際,学習課題を解決するために,どんなことに気を付けて歌ったのかを,板書を基に記述するように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【例】かねがなっているように,やさしくうたう。</p> </div> <p>・繰り返しを生かした歌い方をして楽しむことを伝える。</p>

(4) 板書計画

くりかえしを見つけよう

かねの音が うつくしく
ひびくように うたおう。

鐘の
写真



くりかえしのよさ

- ・楽しい
- ・おぼえやすい
- ・かねがなっているみたい

- ・しずかに → やさしい声で
- ・ゆったりと なめらかに
- 音をしっかりとのばす

かねがなる

作曲 源夫 日本民謡 / フランス民謡*

